

学校名		佐賀県立武雄高等学校		
1 前年度 評価結果の概要	①「グローバル教育」、「地域との連携」、「校内美化」については高い評価が得られた。特に「グローバル教育」、「地域との連携」については学校目標の一翼を担っており、今後もなお一層の活性化を図っていく。また、中高の連携事業は継続し、小グループでの交流も推進し連携を活性化を図る。			
	②進路実績については、国公立大学126名の合格であり、充実した指導体制構築を進めていく。			
	③ICT利活用教育については、生徒の満足度は高く、電子黒板を使つての授業も定着した。生徒の主体的な学習の推進については、学校全体としての取組は依然として課題となっている。			
	④災害ボランティア活動、校外活動、留学・海外との交流事業等に積極的に参加した。また、地域とつながる高校魅力化プロジェクトとして、地域課題探究や地域貢献活動について内外から高い評価を得られた。			
	⑤多様な悩みや困り感を抱えた生徒が増加している。定期的に開催される教育相談連絡会は、生徒対応において統一した理解と指導方針が共有され、一定の効果があった。今後も福祉分野・医療分野や児童相談関係、NPO法人等を含めた外部との連携を効果的に活用し、さまざまな問題に対して対処しなければならない。			
2 学校教育目標	⑥武雄高校だよりなどの広報活動の取り組み、HP、プレスリリースの積極的活用ができた。また、PTA総会については、事後報告会も実施し、出席率60%を超えたが、出席率向上のための工夫が必要である。			
	⑦県教育委員会が主催する各種研修会に多くの教職員が参加し、研修の成果を生徒に様々な場面で還元できた。また、職員一人ひとりの校務の量的な負担軽減を目指し、校務の効率化のために部活動の活動時間や課外活動の精選や縮減、校内の組織や会議の見直しを図った。校務や学年団の組織的な運営を必ず実践し学校運営の活性化に繋げる。			
	高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する			
3 本年度の重点目標	①高い志を抱いた生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばし、継続性を持った中高一貫教育の推進			
	②基礎から応用までの教科指導の充実や、生徒が深く考える活動を通しての進路目標の実現			
	③アクティブ・ラーニングやICT利活用を手段とし、主体的な学習活動ができる授業の推進			
	④地域や国際社会の発展に寄与できる人材の育成			
	⑤様々な教育活動や生徒支援による、心身の健康の増進と豊かな心や想像力の育成			
4 重点取組内容・成果指標	⑥保護者や地域との連携を深め、広く共感と信頼を得られる学校づくりの推進			
	⑦教職員の指導力向上、働き方改革を踏まえた機能的・効率的な学校運営による組織力の強化			
(1)共通評価項目				
	重点取組		具体的取組	
	評価項目	取組内容		成果指標 (数値目標)
	●学力の向上	○教職員の指導力向上	○大学入試研究会を各教科で年2回実施する。 ○各種研修会に10名以上の教職員が参加し、基礎的レベルから応用・発展レベルまで対応できる指導力を身につける。	・大学入試問題研究等の実施によって、より実践的な知識と技能を身につけ、日常の授業への応用を図ることにより、授業内容の改善に取り組む。 ・校外の入試研究会や教科の講習会等に積極的に参加し、入試問題や入試動向等の研究を行う。
		○生徒の実力養成	○全国模試総合偏差値60以上を各学年110名以上にする。	・学習時間調査、進路希望調査の実施や、「学習と生活の記録」を活用し、生徒の日々の生活状況を把握し、指導に活かす。 ・職員研修の充実による教員の授業力向上を図る。 ・模擬試験を受け、教科担当者会議を実施し、模擬試験の結果の検証し、授業方法を見直し、新たな目標を設定をする。
	●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の実践	○ホームルーム活動や校外活動を通して、他者への思いやりの心を育てる。校外活動に参加した生徒、全生徒数の50%以上 ○人権教育の全体計画に基づいて授業【人権・情報モラル】を行った教員80%以上	・ホームルーム活動の時間に具体的なテーマを設定して考えさせる。 ・校内外におけるボランティア活動やイベント等の個々の活動の意義を明確にし、また関連するさまざまな情報を提供して、生徒の参加意欲を引き出す。 ・武陵祭でのクラス企画などグループ活動を通して、助け合いの心を育む。
		●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見に努めるとともに、認知事案に対しては早期解決に努める。 ○いじめ防止(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)や教育相談の体制について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・学校行事や部活動において、生徒自身が集団との一体感を持てる取り組みを工夫することはいじめの起こらない雰囲気を醸成する。 ・「いじめはどの学級でも、どの生徒にも起こり得る」という視点を常にもち、日々の観察、学校生活アンケートの活用、面談等より、いじめの早期発見に心掛け、いじめが認知された時は組織として迅速に対応する。 ・心の教育を通して思いやりの心を育成する。
		○学ぶ意欲のある生徒への対応	○教育相談室の積極活用で、生徒が授業に参加できる環境を作る。 ○授業の欠課数を極力減らす。	・SCの活用や教育相談連絡会、特別支援教育委員会を通して職員間の共通理解を図り、生徒が円滑に学校生活を送ることができる方策を図る。同じように保護者に対してもSCの利用を進める。 ・教育相談室を開放し、利用しやすい雰囲気を作る。 ・学びたいが教室に入れない生徒の把握を行う。
	●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○校内環境美化と学びの場所(教室等)の整備に努める。 ○健康診断を有効に活用し、健康な体づくりに努める。体調不良による保健室利用の生徒の数を減らす。	・学校全体でゴミゼロ運動(ゴミ箱の不設置・ゴミの持ち帰り)に取り組む。 ・健康診断後の治療勧告書や、保健だよりを通じて、健康な体づくりを目指す啓蒙活動を行う。 ・部活動に加入させ、心身の健全な発達を促す。 ・前日に休み、早退の生徒が登校してきたら、様子を聞く。
		●安全に関する資質・能力の育成	・規則の遵守、防犯安全に関する講演会を実施し意識を高める。 ・加害としての交通事故件数0に努める。	・日々のホームルームや集会等を利用して、道徳やマナー・交通安全・情報モラル・人権意識等について講演等を実施する。 ・定期的に服装頭髪検査を実施し、武雄高校生としてふさわしい身なりを意識づける。 ・警察や県生徒指導連盟からの情報提供を参考にプリント・ポスター等で防犯意識を高める。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間・年360時間)を遵守する。 ○職員が平均10日以上年の年休を取得できるようにする。 ○完全退勤時間(22:00)の厳守、振休の完全な実施、様々な休暇の取得の奨励などを行う。	・週休日の部活動の練習時間の削減、休養日の確実な設定、顧問の交代での指導を行う。 ・出張用務の精選、会議時間の短縮化、校内メールやメッセージ機能での情報の共有を行う。 ・閉庁日の設定や校内LANの稼働時間の短縮を行う。 ・留守番電話機能を使い、職員が退勤しやすい環境を整える。 ・分掌組織の改編や業務分担内容の見直しを行う。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○魅力と活力ある高校づくり	◎地域との協働活動・異文化交流の推進	○地域課題の理解のため、講演会を実施し、武雄市と協力し総合的な探究活動を充実させる。まちづくり事業に参加した生徒の満足度80%以上 ○地域の魅力を理解し、地域の将来を考える力を育む。 ○地域の活動・多文化に触れる機会を設定し、海外研修や異文化交流会への参加者を増やす。	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育